

1. (1) $5:3$ (2) $\sqrt{5}$ (3) $\frac{3}{2}$

解説

(1) 図のように、 $FC=x$ とすると、折り返した辺の長さは等しいから、 $EF=DF=2-x$ と表せる。また、 $EC=\frac{1}{2}BC=\frac{1}{2}\times 2=1$ よって、 $\triangle EFC$ で三平方の定理より、 $x^2+1^2=(2-x)^2$ が成り立つ。これを解いて、 $x^2+1=4-4x+x^2$ 、 $4x=3$ 、 $x=\frac{3}{4}$ したがって、 $DF=2-\frac{3}{4}=\frac{5}{4}$ より、 $DF:FC=\frac{5}{4}:\frac{3}{4}=5:3$

(2) 図のように、点Gから辺DCに垂線GIを引くと、 $\triangle GIF$ で三平方の定理より、 $FG=\sqrt{GI^2+IF^2}$ となり、 $GI=AD=2$ だから、線分IFの長さがわかれば線分FGの長さを求めることができる。DI=AG=HGに着目し、辺ABと辺HEの交点をJとすると、 $\triangle FCE\sim\triangle EBJ\sim\triangle GHJ$ ※であり、(1)よりこれらの三角形の3辺

の長さの比は、 $FC:EC:EF=\frac{3}{4}:1:\frac{5}{4}=3:4:5$ よって、

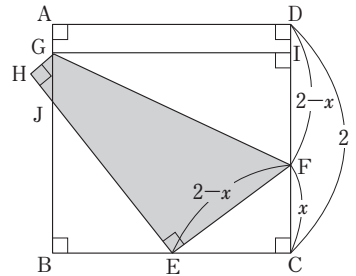
$JE=\frac{5}{3}EB=\frac{5}{3}\times 1=\frac{5}{3}$ となり、 $JH=HE-JE=2-\frac{5}{3}=\frac{1}{3}$ だから、

$HG=\frac{3}{4}JH=\frac{3}{4}\times\frac{1}{3}=\frac{1}{4}$ したがって、 $DI=AG=HG=\frac{1}{4}$ となり、 $IF=DF-DI=\frac{5}{4}-\frac{1}{4}=1$ 以上より、

$FG=\sqrt{2^2+1^2}=\sqrt{4+1}=\sqrt{5}$

(3) 図形EFGHは、四角形DFGAを折り返したものだから、 $HG\parallel EF$ の台形である。(1)、(2)より、 $EF=\frac{5}{4}$ 、

$HG=\frac{1}{4}$ だから、その面積は、 $\frac{1}{2}\times\left(\frac{1}{4}+\frac{5}{4}\right)\times 2=\frac{3}{2}$



※ まず、 $\triangle FCE$ と $\triangle EBJ$ で、 $\angle FCE=\angle EBJ(=90^\circ)$ また、 $\angle CFE=180^\circ-\angle C-\angle FEC=90^\circ-\angle FEC$ 、 $\angle BEJ=180^\circ-\angle FEH-\angle FEC=90^\circ-\angle FEC$ だから、 $\angle CFE=\angle BEJ$ よって、2組の角がそれぞれ等しいので、 $\triangle FCE\sim\triangle EBJ$ ……①
次に、 $\triangle EBJ$ と $\triangle GHJ$ で、 $\angle EBJ=\angle GHJ(=90^\circ)$ 対頂角だから、 $\angle EJB=\angle GJH$ よって、 $\triangle EBJ\sim\triangle GHJ$ ……② ①、②より、 $\triangle FCE\sim\triangle EBJ\sim\triangle GHJ$

